

空気の流れてカビ撃退

梅雨など雨の多い時期になると、気になるのがカビ。なかなか取れない黒ずみや独特の嫌な臭い。悪いイメージばかり頭に浮かぶが、きちんと備えれば、カビのストレスとは無縁の快適な生活を送れそうだ。専門家や業者に防止のポイントを聞いた。

清潔にし増殖防ぐ

微生物と環境・健康の関係に詳しく、著書に「カビの科学」（日刊工業新聞社）がある衛生微生物研究センター（東京都葛飾区）の李憲俊所長は「カビが発生しやすいのは、水がたまりやすい所、結露しやすい所、空気の流れが悪く、湿気の多い所です」と指摘する。カビの多くは湿度80%以上で発育するが、日本の一般住宅の湿度は年平均で30〜80%

衛生微生物研究センターによると、通常、室内の空気中に浮遊するカビは1立方メートルあたり100個未満なら「少ない」、500個以上なら「多い」と判断されるといふ。同センターの協力を得て、東京都内のマンションでカビの数を測定してみた。

想像以上の浮遊状況

で、冬場、窓や壁はよく結露する。湿気の多い北側の部屋では今春、押し入れに収納していた革製のブーツにカビが生える残念な事件も起きた。

近・500個と想像以上に多かった。同センターの李新一研究員によると「カビが多いからといって、すぐに健康被害が起きるわけではない」と指摘。ただ、大量に浮遊するカビを放置して生活していると、ぜんそくなどのアレルギー疾患や肺炎など感染症のリスクが高まるという。

カビ防止のポイント

- 浴室や台所などの水回りはこまめに掃除し、水滴や水たまりをふき取る
- 窓や扉を時々開けて室内の通気性を良くし、湿度を低めに保つ
- 押し入れやクローゼットを時々換気し、収納物を出して乾燥させる
- 窓や壁の結露水を放置せず、こまめにふき取る
- 浴室や結露しやすい部屋では防カビ剤や除湿剤を使う

水分をふき取れば、カビの発生を抑えられる。防カビ効果がある洗剤やくん煙剤も市販されている。「定期的に使用すれば効果が発揮するでしょう」と李所長。

掃除用品をレンタル・販売するタスキン（大阪府吹田市）広報室

「壁に付着した泡や皮脂を放置しておくとかビの栄養になり、増殖しやすくなる。入浴後に壁や床を洗い流して清潔にしておけば、発生しにくくなります。すてアトバースです。それでも発生したらどつすればいいのだろう。カビ取り剤ではない。まず浴室用洗剤を使ってみると、カビが落ちる場合がある」という。しつこい汚れにカビ取り剤を使う場合

は「呼吸器や肌を傷めないよう、マスクと手袋を着けて十分に換気してほしい」という。カビが好むのは浴室ばかりではない。日当たりが悪く、湿度が高くなりがちな北側の部屋や、閉め切ったままの押し入れやクローゼット。断熱対策が不十分で結露が起きやすい壁や窓のアルミサッシなども、カビにとっては「天国」だ。

一年を通して窓や扉を時々開けて通気性を良くし、押し入れやクローゼットにも空気を通し、収納物を出して乾燥させると良いという。「壁や窓の結露水やほこりを放置せず、こまめにふき取るのも効果的です」（李所長）

2015年6月3日 夕刊

①カビが発生しやすい場所はどこでしょうか。

②カビが発生したらどうすればいいのでしょうか。

③カビ防止のポイントで、自分の家で取り組みたいことを書きましょう。

年 組 名前

（小学生・中学生・高校生 家庭科・理科、保護者・教員）